

博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程
博士学位論文審査委員会

主 査 中村 仁

審査委員 増田 幸宏

審査委員 鈴木 俊治

審査委員 ヤスミン バタチャリヤ

審査委員 村山 顕人

*審査委員

氏 名	Nadzirah Binti Hosen
論文題目	The Role of Traditional Ecological Knowledge in Climate Change Adaptation (気候変動適応における伝統的な生態学的知識の役割)
〔論文審査の要旨〕 世界各国には、特定の地域に元来住み続けている先住民コミュニティが多数存在している。先住民コミュニティは、Traditional Ecological Knowledge: TEK (伝統的な生態学的知識) を長年にわたり継承して、様々な環境変化に対応してきた。一方、地球全体として、気候変動による環境問題、自然災害が顕在化しており、その有効な適応策が模索されている。以上を背景として、本論文の目的は、気候変動への適応における TEK の役割と可能性を明らかにするものである。 論文は、包括的な文献調査にもとづく概念的枠組みの構築、マレーシア・サラワク州の先住民コミュニティのフィールド調査と分析、結果の考察、気候変動適応策への示唆から構成される。概念的枠組みとして、Local Knowledge of the Environment、Land & Resource Management、Social Network & Institutions、Worldview & Belief Systems の4つの要素が重要であることを明らかにしている。さらに、3つの先住民コミュニティでの現地調査、インタビュー調査によって、4つの要素それぞれについて気候変動適応の手法（方策）を具体的に抽出して、TEK が気候変動適応に有効に機能していること、また、そのために考慮すべき施策を明らかにしている。 最終審査は、2020年8月3日（月）午前10時～12時にオンライン方式で実施した。プレゼンテーションと質疑応答の結果、TEK の概念的枠組みに対する深い考察にもとづいてフィールド調査の分析が明確にまとめてあり、気候変動への適応における TEK の役割と可能性について優れた成果を挙げていると評価された。予備審査において、気候変動適応における TEK の限界や課題の考察、実践的な示唆の具体的な提案内容の拡充、今後の研究課題の記述の拡充について改善の指摘がなされていたが、それらの点についても的確に対応がなされていると評価された。また、博士論文の成果をふまえ、今後の研究課題、実践面での可能性について活発に議論がなされた。 なお、博士課程在籍中に公刊された研究業績として、国際ジャーナル論文が2編、審査付き国際会議プロシーディングスが5編となっており、優秀論文賞の受賞が1回、最優秀発表賞の受賞が2回という実績を有している。 以上より、審査委員全員が「合格」と判定した。	